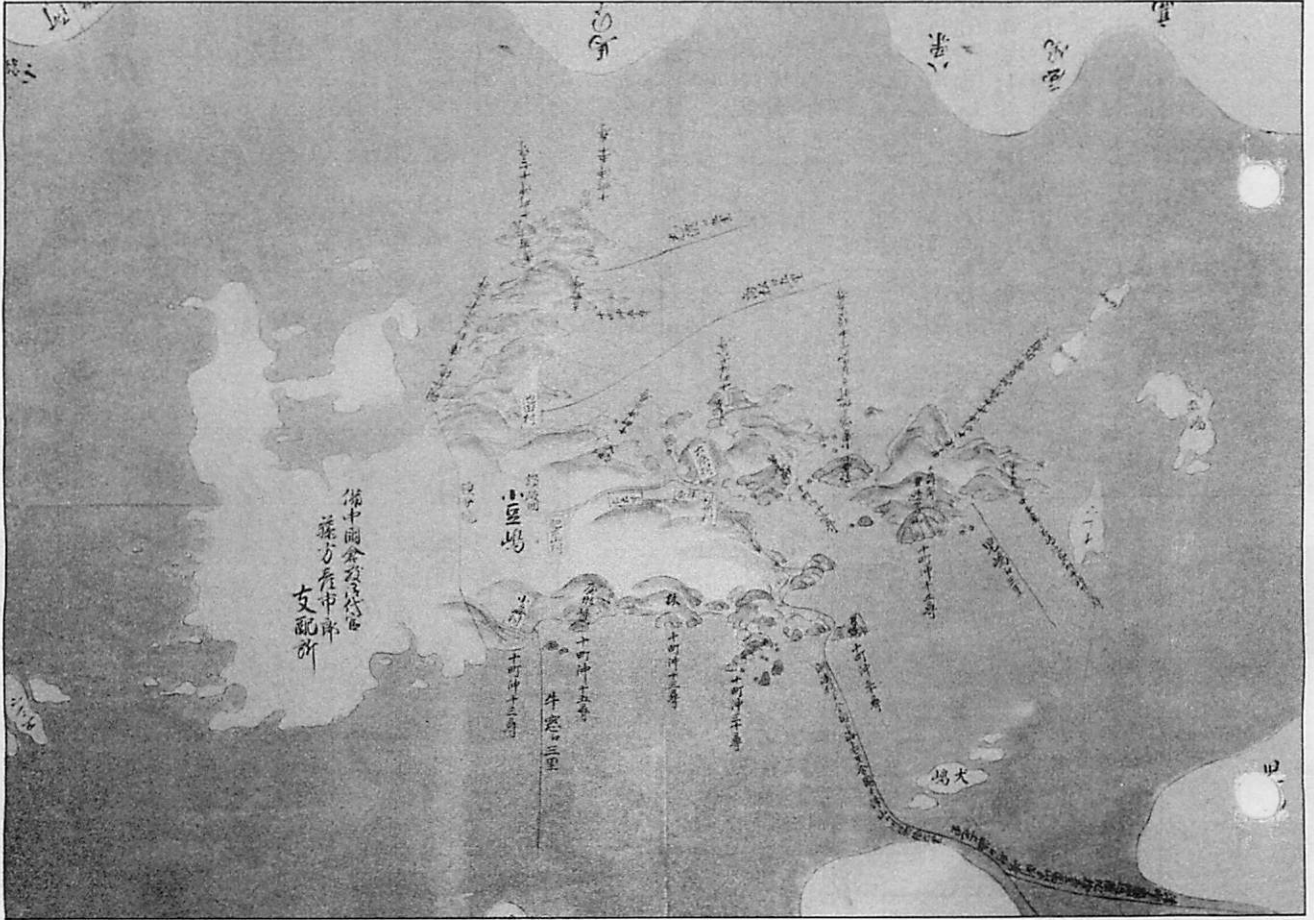




津山と小豆島

津山市南新座26 市立津山郷土館

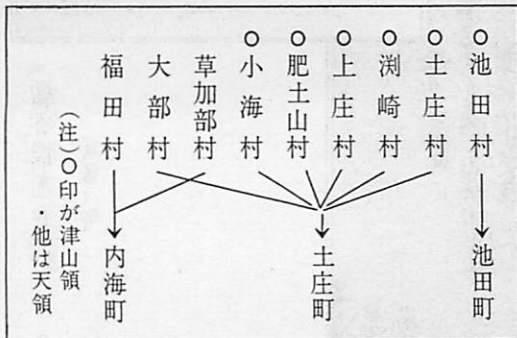


小豆島絵図

弘化年間

昭和六〇年一月十八日、津山市と土庄町（小豆島）の間で「歴史友好都市縁組」が結ばれました。江戸時代末期、土庄町のほとんどが津山領であったことによります。

天保八年（一八三七）十一月、小豆島九ヶ村の内六ヶ村が津山領となりました。以後明治二年（一八六九）版籍奉還により、津山藩・津山県・北条県が管轄、同五年より香川県に編入されました。



大砲寺行

太田仙助

長子

永連王

大砲寺

川崎権左衛門

伊達重人

川原英治

少輔俊治

海老原

石垣

伊達

伊達

「小豆島出張人数名面并泊り附」

安政元年九月

安政元年（一八五四）九月、ロシア使節プチャーチンの率いる軍艦に、小海村の廻船が兵庫沖で遭遇しました。

早速津山藩では、小豆島海岸防備のため、太田仙助以下六四名を派遣しました。また、文久三年（一八六三）海岸防備の目的で、村民の二・三男一〇〇名を選抜し、足軽とし名字帯刀を許しました。

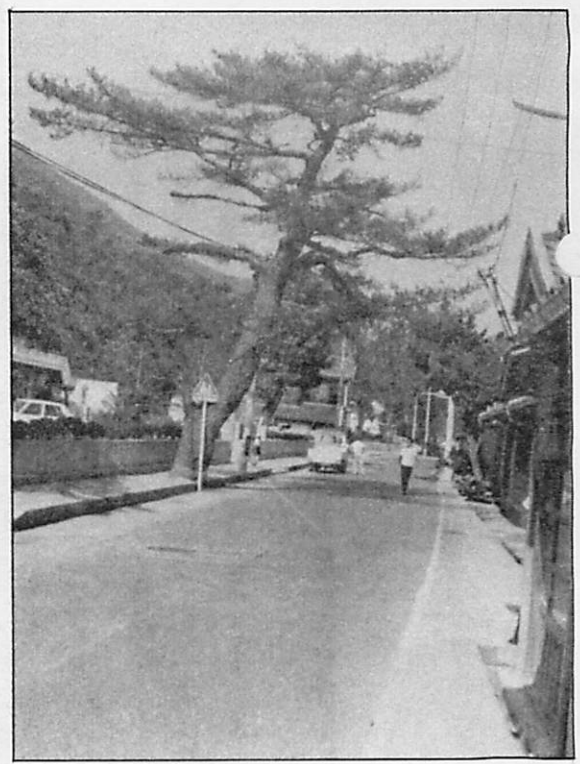
『小豆島出張人数名面并泊り附』

安政元年九月

安政元年甲寅年

小豆島出張人数名面并泊り附

津山 鈴木某



『陣屋の松』

「陣屋の松」

天保一四年（一八四三）、洲崎村に陣屋が設置されました。この松は、その名残りでしたが、枯れたため伐られ、今では代りの松が植られています。

「英国軍艦」

池田湾碇泊と

幾太郎事件」

元治元年（一八六四）八月

二三日、英国軍艦が池田湾に碇泊中、艦員所持の銃が暴発しました。この折、たまたま軍艦を見物中の蒲生村民幾太郎に弾丸があたり即死する惨事がおこりました。この事件解決に、藩士鞍懸寅二郎が尽力し、報償として洋銀二百枚（一一一両一步一朱二分五厘）が英国側から支払われました。

元治元年八月三日、英國軍艦が池田湾に碇泊中、艦員所持の銃が暴発し、蒲生村民幾太郎に弾丸があたり即死する惨事がおこりました。この事件解決に、藩士鞍懸寅二郎が尽力し、報償として洋銀二百枚（一一一両一步一朱二分五厘）が英国側から支払われました。

少佐有るは、この日、池田湾に碇泊し、艦員所持の銃が暴発し、蒲生村民幾太郎に弾丸があたり即死する惨事がおこりました。この事件解決に、藩士鞍懸寅二郎が尽力し、報償として洋銀二百枚（一一一両一步一朱二分五厘）が英国側から支払われました。

『国元日記』

元治元年

元治元年八月三日、英國軍艦が池田湾に碇泊中、艦員所持の銃が暴発し、蒲生村民幾太郎に弾丸があたり即死する惨事がおこりました。この事件解決に、藩士鞍懸寅二郎が尽力し、報償として洋銀二百枚（一一一両一步一朱二分五厘）が英国側から支払われました。

改政一乱記

目録

山田藩徳和
 附り如代公配
 徳和所記
 伊後中江徳和
 附り人百指
 上り徳和所記
 時中江徳和
 宜る所中江
 恐る所中江
 主中江
 中江
 中江

『改政一乱記』

「百姓一揆」

文久元年（一八六一）の津山藩政改革によ
 り、翌二年から年貢の割増と諸運上の取立
 てが新設されました。加えて、天災地変と米
 価の暴騰により、農民の困窮は深まる一方で
 あった。このため慶応二年の暮から翌年にか
 けて、六ヶ村から年貢の減税など六ヶ条を要
 求して百姓一揆が勃発しました。

『郡代日記』 慶応三年

下凡百廿五回

今由山田藩
 不川川用
 中江
 附り

少皇
 其川
 附り

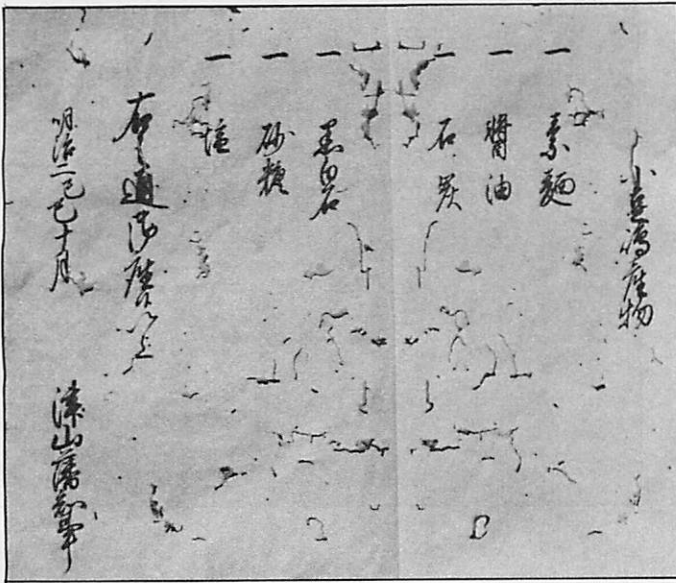
二月廿五日

附り

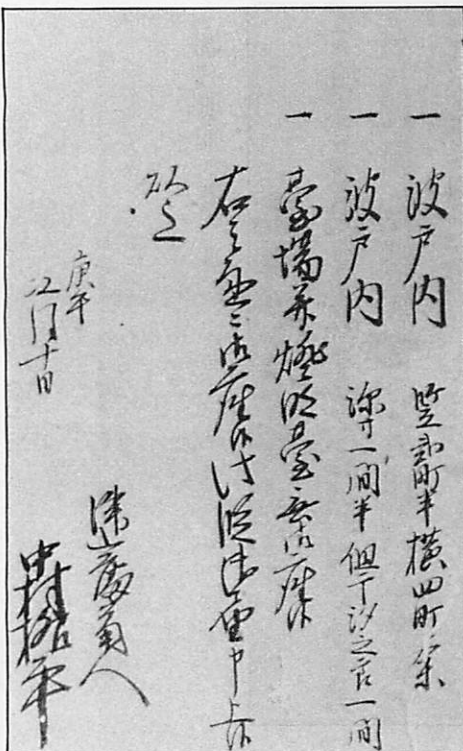
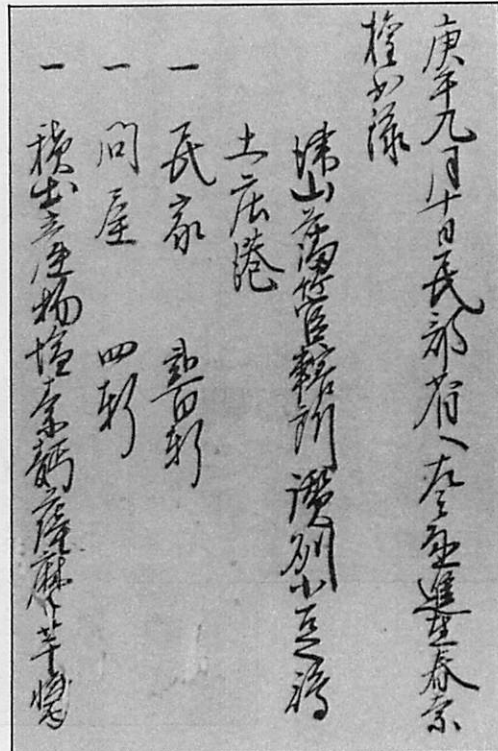
「小豆島産物」と「御進達書」

明治二年（一八六九）の版籍奉還により、小豆島六ヶ村は津山藩の管轄となりました。「小豆島産物」は特産品として、また「御進達書」は土庄港の概要を明治政府に報告したものです。

『小豆島産物』 明治二年



『御進達書』 明治三年



年号	月日	主な出来事
天保8 (1837)	11.15	津山領の村替があり、小豆島6ヶ村が津山領となる。
	9 3.	6ヶ村の引渡しがされる。
	3.13	淵崎村(庄屋)甚太夫ら5名を、大庄屋並に任命する。
	4.	「小豆嶋御条目」が出される。
14		淵崎村に陣屋を設置する。
弘化2 (1845)	4.	江戸津山藩邸が焼失し、普譜の手伝いや、金子を献納した大庄屋並・庄屋等に酒・鯛があたえられる。
	4 7.14	大風雨のため、淵崎村30軒余りが砂・石・大木で押埋まった。
嘉永3 (1850)	1. 6	90歳以上16名に、米・銀の手当が出された。
	6 6. 3	アメリカ使節ペリーが、浦賀に来航。
	7.18	ロシア使節プチャーチンが、長崎に来航。
安政7 (1854)	9.	プチャーチン再来、津山より小豆島海岸防備のため64名を派遣する。
	2 5. 3	松平斉民が隠居して、慶倫が津山藩主となる。
	5 6.16	砲術修行・船軍訓練のため、津山藩士29名が小豆島に出張する。
文久1 (1861)	8.23	土庄村笠井健左衛門ら6名が、大庄屋に任命される。
	2 5.	年貢を一割増税する。
	3	6ヶ村民の次・三男100名を足輕に選抜し、陣屋に配置する。
元治1 (1864)	8.23	蒲生村民幾太郎が、池田湾に碇泊の英国軍艦を参観中、銃が暴発し即死する。
慶応2 (1866)	6	津山藩が、第2次長州征伐に出発、小豆島から足輕25名が従軍。
	3 1	6ヶ村で百姓一揆がおこる。
	12	「えいじあないか」踊りが始まり、翌年1・2月まで小豆島全島に波及する。 王政復古の大号令。
明治1 (1868)	3	神仏分離令により、廃仏毀釈運動がおこる。
	9	明治維新。
	2 6	版籍奉還 松平慶倫が、津山藩知事となる。 6ヶ村が津山藩の管轄となる。
	3 1	津山藩知事が6ヶ村を巡視する。
	4 7	津山藩廃止、津山県となる。
	11	津山県廃止、北条県となり、6ヶ村を管轄する。
	5 1	6ヶ村が北条県から香川県に編入する。



津山藩庁棟瓦